

防衛力整備計画

自衛隊の能力等に

12式地対艦誘導弾能力
向上型(地上発射型・艦
艇発射型・航空機発射
型)、島嶼防衛用高速滑
空弾および極超音速誘導
弾の開発・試作を実施・
継続する。島嶼防衛用高
速滑空弾および極超音速
誘導弾をはじめ、各種誘導
弾の長射程化を実施す
る。米国製のトマホーク
をはじめとする外國製ス
タンド・オフ・ミサイル
の着実な導入を実施・継
続する。
・スタンド・オフ・ミサ
イル等を保管するための
火薬庫を増設することも
に、射場利用の確保を含

度まで、艦艇発射型は26年28年度までの開発完了を目指す。
 ●戦闘防衛用高速防空彈の研究を継続し、早期装備型について25年度までの事業完了を目指す。
 ●統合防空ミサイル防衛能力

- ・従事するイージス・システム搭載艦を整備する。
- ・反撃能力の運用は、無合運用を前提とした一貫的な指揮統制の下で行う。
- 宇宙・サイバー・情報戦
磁波領域
- ・スタンダード・オーフ・ワーカーの運用をはじめとする領域機動作戦能力を向上させるため、宇宙領域を活用した情報収集、通信等の各種能力を一層向上させる。
- ・27年度を目標として、自衛隊サイバー防衛隊等の廿二バーゲン連部隊を約400人拡充。27年度を

なる人工知能（A-I）を活用した公開情報の収集・分析機能の整備、各団等による情報発信の真偽を認検するためのセンサ上の情報等を自動集め、機能の整備、情報をもつて開拓する特捜機能の整備を行つ。

- 機動展開能力

- ・ 自衛隊の機動展開や民保護の実効性を高めるために、特に南西地域における空運・港運等を整備・強化する施設に取り組むとともに、既存の空港・港湾等を運用基盤として使用するために必要な措置を講じる。

- ・北海道に配備する。
・スマンド・オーフ防衛能力を強化するため、12地中艦誘導弾能力向上用を装備した地対艦ミサイル部隊を保持。戦闘防衛用高速滑空弾を装備して部隊、島嶼防衛用高速誘導弾（能力向上型）および超音速誘導弾を装備した長射程誘導弾部隊を新編。
- ・南北地域に補給処支拠点を新編。補給統制本部を改編し、各補給処を一一的と連絡する。以降後方支援体制を強化する。

- ・有事における航空政策への対処等のため、戦闘機(F-55B)の運用が可能となるほか、これを機に艦艇の改修を推進する。
- 【航空自衛隊】
- ・F-104戦闘機の退役が込まれる35年度までに、英國・イタリアと次期戦闘機の共同開発を推進する。
- ・宇宙作戦能力を強化するため、航空自衛隊は宇宙軍団部隊とする。
- 在日米軍の駐留を支えるための施策
- 在日米軍の安定的な

が、平素からシーマーレベ
かつ効果的に活動できる
よう、自衛隊施設および
米軍施設周辺の地方公共
団体や地元住民の理解
および協力をこれまで以
上に獲得していく。防衛
省・自衛隊の政策や活
動、在日米軍の役割に関
する積極的な広報を行
う。

前途に、サイバー関連部隊の要員と合わせて防衛省・自衛隊のサイバー要員を約2万人体制とし、さらなる体制拡充を目指す。

● 藝文叢書

・南西地域への機動展開
能力を向上させるため、
共同の部隊として海上輸
送部隊等に賜り。

・競争力等に12式地対艦説導弾能力向上型等の各々ノド・太フ・リサウルを搭載。

レゼンスを支えるだけではなく、日米同盟の抑止力・対処力を強化していく観点から、「同盟強靭化予算」をはじめとする

地域との連携

自衛隊および在日米軍

とする垂露穿射形を有する

鳥銭および往來

卷之三

自衛隊の能力等に
関する主要事業
・12式地対艦説弾能力
及び訓練、整備等に必要な
施策を着実に実施する。

（3）MIDI（暗黒魔術）
（4）サウンド（SOUND）
を取得する。

● 航空機の動向と課題

・送音隊を新編する
・南北地域に防衛体制を強化するため、第15旅団

ミサイルを搭載し、スタンダード・ミサイル・システムを構成する。

在日米軍の賦雇に關する
する経費を安定期に確
保。

